



亀塚第一住宅の跡地

植田 美枝子

**問** 亀塚第一住宅の跡地利用の提案を受けている団体に公益社団法人青年海外協力協会とあるが、どのような団体でどのような実績があるのか。

**総務部参事** 震災の発生直後から里の杜サポートセンターの運営に参画しており、現在も支援を受けています。また、平成27年8月に青年海外協力協会と地方創生に関する協定を結んでいます。

**問** 地域住民との意見交換を進めているとあるが、いつ、どこで、どんな形で行ったのか。

**総務部参事** 青年海外協力協会の職員が、地域の町内会長や民生委員の方々と訪問し、地域の特徴や課題などの意見を伺いました。

**問** 地域住民だけではなく、市民全体から広く意見を求めるべきと考えるがどうか。

**総務部参事** 岩沼の重要な資産だと思しますので、いろいろな方のご意見を聞きながら行います。

**問** 複合型福祉施設運営の提案を受けているとあるが、具体的にどのような内容か。

**総務部参事** 保育所や地域子育て支援センターなどの子育て支援機能、高齢者の生きがい創出、健康づくりの支援、障害者の就労支援など、いろいろな機能を持つ施設の提案を受けています。

高層市営住宅建設しては

**問** 複合型福祉施設と併設して、高層の市営住宅を建設してはどうか。

**復興・都市整備課長** 市の公営住宅の戸数は充足していますので、建設は考えていません。

**問** 亀塚第一住宅の跡地は住むのに魅力的な場所です。縦も横も高さも十分に利用したものを建設すべきではないか。

**建設部長** 公営住宅の戸数が多いので現時点では考えていません。古くなった住宅の改修やバリアフリー化を進め、魅力的な団地形成の必要性は感じています。

◎その他の一般質問

- ・さわやか市政推進課への市民からの意見や要望
- ・認知症初期総合支援



汚染廃棄物の試験焼却

渡辺 ふさ子

**問** 村井知事が8000ベクレル以下の放射能汚染廃棄物に、一般廃棄物を10倍前後混ぜて焼却し、その焼却灰を既存の管理型処分場に処分する方針を打ち出した。12月に住民説明、同月下旬に市町村長会議（方針を決定）で、来年1月から2月には試験焼却を開始するというスケジュール案が示された。放射能汚染が危惧され、住民合意が前提になる。周辺住民や市民の意向確認をどう進めるのか。

**副市長** 施設周辺の住民や企業を対象に行いたいと考えています。  
**問** 一般廃棄物を混ぜて混焼しても減容効果がなく、焼却灰を増やすだけである。焼却以外の対応と安全管理を市町村長会議に提起すべきではないか。

**副市長** 岩沼市としては焼却する方法で協力したいと考えています。  
**問** 焼却以外で市町村が独自に処理することは可能であり、堆肥化、すき込み、林地還元等の処理方法が示されている。志賀地区のほど木86・1の処理をどう考えているのか。

**副市長** ほだ木の平均濃度は59ベクレルで、保管者の意向もあり林地還元することになっています。  
**問** 焼却炉のバグフィルター等で放射性セシウムを99・9%除去できるといふ環境省の言い分が大前提だが、焼却前後の主灰、飛灰のセシウムを測定して比較する物質収支を評価しておらず、排気ガス中のセシウム濃度の測定法にも研究者から批判がある。市町村長会議で説明を求めるべきでは。

**副市長** 改めて説明を求める考えはありません。  
**一斉焼却の方針は撤回を**  
**問** 放射能への対処は、拡散させないで住民の被ばくを防ぎ、適正に管理することが基本である。試験焼却は住民を一方的に実験台にするものであり、納得できない。全県で一斉に焼却する方針の撤回を求めるべきではないか。

**副市長** 現時点では市として協力していきたいと考えています。  
**◎その他の一般質問**

- ・仙台空港との共栄